

○再整備・再配置の方向性

豊岡第二地区

(1) 地域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
地区センター	既存施設の活用を前提とするが、他の広域対応施設との複合化についても検討する。	1 東町公民館を活用する案	【メリット】 ・市役所やその他の広域対応施設の配置を考慮すると、地区内での配置バランスが良い。 【デメリット】 ・一部が借地であるため、土地の購入を検討する必要がある。 ・複合化による施設拡大や駐車場確保に向けた敷地拡張の余地がないため、駐車場を離れた場所に設置する必要がある。 ・集中豪雨の際に敷地の一部が浸水しており、防災拠点としての安全性に不安がある。
		2 広域対応施設を活用する案 ※想定されるのは産業文化センターへの複合化	【メリット】 ・他の機能と複合化することで相乗効果が見込まれる。 ・地区の中心部近くに移転することとなるため、全体的な利便性が高くなる。 【デメリット】 ・地区センターが複合化されることで、多くの機能が集約されることになり、駐車場の不足が懸念される。 ・市役所に近くなるため、役割分担を明確にする必要がある。
		3 別の場所へ移転して新設する案	【メリット】 ・施設設置後に移転ができるため、業務停止期間が生じない。 【デメリット】 ・現地に施設がある場合、建設までに期間を要す。 ・市の所有地でない場合は、土地を購入する必要がある。
	複合化しない場合の想定		【メリット】 ・現在のサービスは変わらず受けることができる。 【デメリット】 ・地域の拠点施設として、機能を充実させることができない。 ・各種行政手続きや福祉、地域包括支援センター、自治振興といった地域に必要な機能のワンストップ化につながらない。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
小学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いとため、既存施設を活用することを前提とする。	1 豊岡小学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部近くに存在するため、多くの児童が通学しやすい。 【デメリット】 ・敷地拡張ができないため、保育所を複合化することは困難である。 ・豊岡地区の中央に存在するため、他の地区の通学区との関係にも配慮する必要がある。
		2 東町小学校を活用する案	【メリット】 ・小中一貫教育を行う上では、中学校と隣接していることで、実施しやすい環境にある。 【デメリット】 ・隣地にある中学校を含めると大きな公共用地があり、将来的には他の公共施設用地として活用しやすいとため、こうした面も配慮する必要がある。
	統合しない場合の想定	【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・2校を存続させた場合、1校分よりも多くの維持管理及び運営費が見込まれるため、建替えや大規模改修（リニューアル）のための費用を確保することが難しくなる。 ・児童数が減少し、学校の規模が大幅に縮小する可能性がある。	
	複合化しない場合の想定	【メリット】 ・原則、敷地内へ児童しか入れないため、現行の教育環境が確保される。 【デメリット】 ・今後求められる学校と地域住民の連携強化や世代間交流の機会を増やすといった、複合化によるメリットを活かすことができない。	
学童保育室	小学校の改修に合わせて校舎への複合化を図るとともに、小学校に合わせて統合する。	1 豊岡と東町学童保育室を統合して小学校に複合化する案	【メリット】 ・統合することにより、施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・待機児童が生じないようにするためには、施設規模の拡大が必要になる可能性がある。

施設名	再整備・再配置の方向性	整備パターン	メリット・デメリット
中学校	市街化が進んでいる地域であり、新たな学校用地を見つけられる可能性が低いと見込まれるため、既存施設を活用することを前提とする。	1 豊岡中学校を活用する案	【メリット】 ・地区の中心部近くに立地するため、多くの生徒が通学しやすい。 ・小学校の通学区に課題のある豊岡第3地区の一部を通学区として見込むことができる。 【デメリット】 ・現段階で想定される事項はない。
		2 東町中学校を活用する案	【メリット】 ・小中一貫教育を行う上では、小学校と隣接していることで、実施しやすい環境にある。 【デメリット】 ・隣地にある小学校を含めると大きな公共用地があり、将来的には他の公共施設用地として活用しやすいと見込まれるため、こうした面も配慮する必要がある。
	統合しない場合の想定		【メリット】 ・通学区等の見直しがなければ、通学距離（時間）が長くなることはない。 【デメリット】 ・学級数が少なくなると、配置される教員数が減少するため、各教科に専任の教員を配置できない可能性がある。 ・生徒数が少ないため、部活動の種類（選択肢）が減る可能性がある。
老人憩いの家	施設更新は行わず、地域の自治会等への譲渡を検討し、施設機能は、他の地域対応施設に移転する。ただし、高齢者の利便性が著しく低下する場合は、一部施設の継続も検討する。	1	【メリット】 ・譲渡することにより施設面積が縮減できる。 【デメリット】 ・高齢者の利便性が低下する可能性がある。

(2) 広域対応施設

施設名	再整備・再配置の方向性
市役所	(仮称) 市役所整備計画に基づいた整備を実施する。
市民会館・中央公民館	市役所の複合施設への機能移転を前提に、廃止し除却する。
産業文化センター	長寿命化を図ることとするが、施設に備える機能については別途見直しを検討する。
児童センター	長寿命化を図ることとするが、施設に備える機能については別途見直しを検討する。
市民体育館	機能を維持し、長寿命化を図る。
市民活動センター	機能を維持し、長寿命化を図る。
防災センター	機能を維持し、長寿命化を図る。
入間市駅南口自転車駐車場	機能を維持し、長寿命化を図る。ただし、長期的な視点で大規模改修か更新かを検討する。